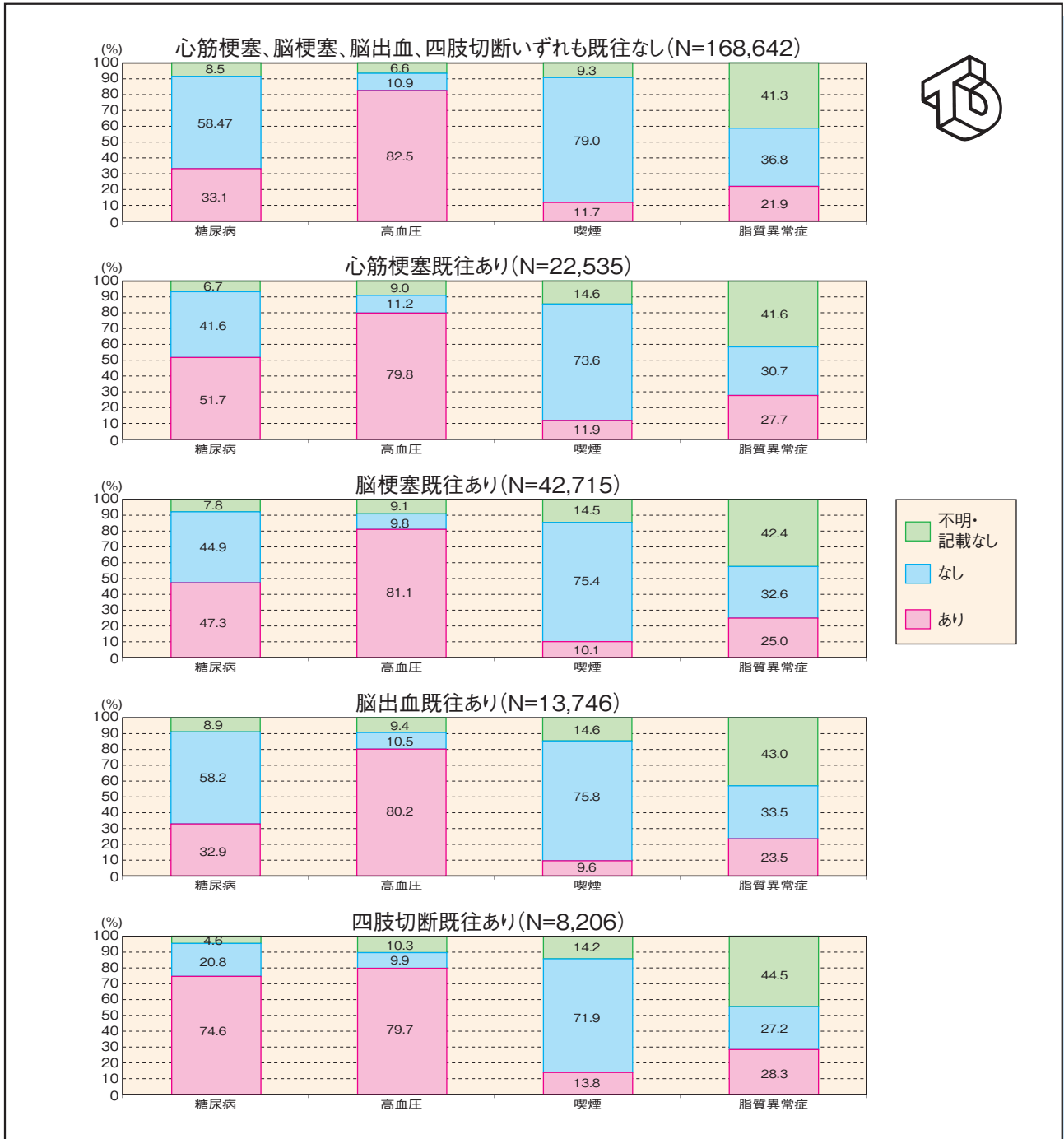


6) 血圧・喫煙・脂質異常症

(4) 古典的冠動脈危険因子保有割合 (図表59)



集計対象：透析患者全体

解説

古典的危険因子の保有状況について、心血管疾患の既往歴別に比較した。危険因子の定義は、糖尿病は原疾患が糖尿病性腎症の場合、高血圧は前述の定義、喫煙は現在喫煙あり、脂質異常症は①HDL-C<40mg/dL、②Non-HDL-C \geq 150mg/dLのいずれか一つ以上を満たすものとした。データ不足などでこれらの危険因子保有が特定できないものは「不明・記載なし」とした。

心筋梗塞、脳梗塞、脳出血、四肢切断いずれも既往のない群における危険因子の保有割合は、糖尿病33.1%、高血圧82.5%、喫煙11.7%、脂質異常症21.9%であった。これに対し、心筋梗塞既往のある群では、糖尿病、脂質異常症を保有する割合が多く、喫煙に関する差はわずかで、高血圧は少ない傾向であった。脳梗塞既往のある群では、糖尿病と脂質異常症の割合が多く、脳出血既往のある群では、危険因子プロフィールに特徴は乏しかった。四肢切断既往のある群では、糖尿病、喫煙、脂質異常症の割合が多く、特に糖尿病ありは全体の74.6%と高率であった。

ただし、これらの心血管疾患発症をきっかけに危険因子の是正がなされている場合もあり、今回の横断研究における結果は慎重に解釈すべきである。